

# JAMCA ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No. 8

1996年1月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会

編集事務局 〒136 東京都江東区亀戸2-28-5

☎03-3685-6761 FAX03-3684-7420

## 質向上で“冬”を乗り切る

### 企業・学生の期待に積極的対応を

全国自動車整備専門学校協会副会長 我妻 祥宏

本年6月の総会におきまして、副会長に選任され、身の引き締まる思いです。私自身また私どもの学校自体の歴史も短く、歴史および経験豊かな諸先輩を差し置いて、私ごときに務まるのかと大きな不安を感じております。

私は校長職について7年ほどになりますがそれ以前は、日産自動車(株)の、主として開発部門で約30年間、仕事をしてまいりました。この時期は、今振り返ってみますと、日本の自動車産業が最も生き生きと活動し、各社がどんどん成長していた時代でした。自動車産業の成長が、余りにも急激だったため、交通渋滞、交通事故、公害問題などが社会問題としてクローズアップされましたが、それにもかかわらず、日本の自動車産業にとって最良の時代だったと思います。

#### 大学との差は縮まって来た

それに比べますと、ここ数年は自動車産業にとっても、我々自動車整備専門学校にとっても、まさに冬の時代という感じです。しかし、時代はどうかであれ、社会が優秀な自動車整備士を必要としていることは厳然たる事実ですから、我々としては社会の要請に応える責任があります。従来、どちらかというところ、この点を強く意識する余り、我々の教育が、やや技術・



技能に偏りすぎていなかったかと反省しているところです。

ここ数年の世の中の動きを見ても、「専門士」の称号付与に見られるように、専門学校の後期高等教育機関としての役割が、世の中に認められてきたといえます。更には、短大・四大との単位互換とか、編入学が現実の問題になりつつあります。

確かに、短大・四大と我々専門学校とは同じ高等教育機関とはいえ、性格は相当違います。しかし、学生あるいは企業(就職先)サイドの見方では、この差が以前よりも縮まって来たように思いますがいかがでしょうか。もしそうだとすると、我々もこの変化に対応していく必要があるのではないのでしょうか。

昔は2級整備士の資格を取らせれば十分でしたが、今でもそうでしょうか。2級整備士資格は

今でも必要です。しかし、それだけでは十分ではなくなりつつあるように思われます。企業側の期待レベルの向上(整備技術+α)、学生の向学心の高まり、自動車技術の急速な進歩などへの対応も考えていかなければならなくなって来たと思います。

これらの対応を考える時、個別の対応が難しい問題については、やはり協会の力が必要だと思います。その時は、ぜひ一緒に考えさせていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

#### 教科書編集にご協力を

最後になりましたが、私は昨年より協会の教科書編集委員長を仰せつかっており、現在、委員の先生方および各学校のご協力のもとに作業を進めておりますが、教科書を創ることの難しさをひしひしと感じております。会員各位の今後の一層のご協力を、この誌面をお借りしてお願いする次第です。

#### ■ CONTENTS ■

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 特集・新春座談会
- 6面 協会トピック
- 7面 各校の行事紹介
- 8面 私の教授法